



## 分析機器メーカーで働くということ

アサヒグループホールディングス(株)の柿木様からバトンを引き継ぎました(株)イービー・サイエックス 大関です。柿木様には食品分野の学会でお会いする機会も多く、私達の製品を業務にご活用頂いている関係から、日頃から大変お世話になっております。外資系分析機器メーカー勤務者のリレーエッセイ執筆はめずらしいと気づきましたので、私の業務、携わってきた装置の歴史、喜びややりがいについて、こうありたいという理想とともに綴ってみます。

私たちの会社はアメリカに本社があり、質量分析装置(LC-MS/MS)の開発・製造・販売を通じて、創薬、食品・環境の安全管理、ライフサイエンス、臨床研究、あるいは化学工業における複雑な分析課題の解決に日夜挑戦し続けています。

LC-MS/MSは、LC(液体クロマトグラフィー)とMS(質量分析)という二種の異なる分離技術を組み合わせた分析装置です。高感度・高選択性が求められる分析シーンでは、今や欠かせません。繁用のきっかけは、医薬品の開発にその有用性が広く認められたことです。私自身15年前に初めて触ったとき、例えば50mプールに目薬1滴分の極微量な成分でも検出可能になったことに感動しました。今でも新製品が発売される時に、最新技術にいち早く触られることは、分析者としての喜びの一つです。

LC-MS/MSは、低分子の薬物だけでなく、脂質、ペプチド、タンパク質など、検出できる物質の広さと一度に検出できる物質の数が多く、様々な分野へ応用できることも魅力です。平成16年には飲料水・環境水に含まれる農薬の水質管理の分析法に、平成17年のポジティブリスト制では、食品中の残留農薬一斉分析法に、それぞれLC/MS(/MS)が指定されました。平成23年には、新生児の先天性代謝異常の検査方法にタンデムマス法(LC/MS/MS)を積極的に検討する旨の通達が、そして本年は脱法ドラッグの包括指定により700種を超える薬物の規制が導入されました。LC-MS/MSはその一斉分析能力をこれからもいかに発揮することでしょう。私たちの販売する製品が、食とくらしの安心・安全の確保に役立っている、そしてその製品普及に貢献することで社会的意義と役割を達成できることが、仕事への大きなモチベーションになっています。

私の経歴ですが日系企業の技術営業を経て入社。13年間アプリケーションサポートとして製品販売のための技術的な営業支援、装置を使用したデモ分析、お客様へのサポートなどを担当しました。ここ2年間は、マーケティング部に属し、お客様に必要な情報をリアルタイムに発信、担当市場のニーズを満たすアプリケーションの開発などを行っています。外資系企業の日本法人ではありますが、私の直属の上司や同僚は日本人、そしてお客様も日本人。担当市場も日本のみのため日常業務に関しては、国内の日系企業との大きな違いはないと感じます。

違うところは、吸収合併が多いことでしょうか。一緒に働くメンバーはさほど変わらないけれど、社名は15年で4回、組織変更はそれ以上にありました。中途入社の方も多く、様々なバックグラウンドをもった人が集



まっている環境において常に意識させられることは、「全ての活動は付加価値を生む」ということです。価値とはお金のことではありません。そして、会社は社員の行動に細かいことを言いません。誰かに管理されなくても、自分で成果を出すことが期待されているからです。一人の「プロフェッショナル」としての結果が求められます。

「プロフェッショナル」とはいったい何なのでしょう。それは、一定の基準を満たす「技(わざ)」を持っているかどうかだと思います。お客様が抱えている問題に対して、ソリューションを提案できるかどうか。そのために既存のシステムを活用するか。あるいは新製品をご提案するか。ただし、装置は自発的に動いてはくれません。結果はあくまでも扱う人の「技」次第です。私が入れた「技」をお客様へ伝えることも私の大事な仕事です。私がお客様を支援することで科学技術が発展し、結果として最新技術が生まれるという価値創造活動の循環サイクルの一端を担えば、社会人として人生をより豊かに生きることができると思います。そのために、科学への探求心を忘れず、経験と訓練により手に入れた「技」を常に磨き続けることで、真の「プロフェッショナル」であり続けたいです。

写真は、21階にあるオフィスから外を見た東京の風景です。仕事に行き詰まったときに晴天の富士山や綺麗な夜景を見ると、とても良い気分転換になります。私達の「技」を伝える「御殿山キャンパス」セミナーでもこの風景をご案内しています。ぜひご参加ください。お待ちしております。

今回のリレーエッセイは、名古屋大学大学院医学系研究科 法医・生命倫理学教室の財津 桂先生にお願い致しました。昨年度までは大阪府警察本部にて薬毒物分析に関する研究で精力的にご活躍され、本年度から名古屋大学の准教授として新しいキャリアをスタートされました。財津先生のお話を伺ってみたい、依頼に至った次第です。ご多忙なところ執筆依頼をご快諾いただき、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

〔(株)イービー・サイエックス 大関由利子〕